

大規模地震に備えて

地震・津波対策訓練を実施 (H26.11.28)

～即時即応性の確立に向け、災害対応に必要な基礎的事項を確認～



いつ起こるかわからない大規模地震に備え、地震・津波想定に基づいた災害対策訓練を実施。

<地震・津波想定>

- 地震発生：平成26年11月28日(金) 午前9時
- 地震名：鳥取沖東部断層地震
- 震源地：鳥取県沖（鳥取市の沖合20km付近） マグニチュード7.3
- 管内の震度：震度6強～震度4
- 管内の津波：鳥取港（初期潮位+1.7m）、境港（初期潮位+1.8m）



- ・地震発生後、午前9時30分、中国地方整備局に災害対策本部を設置。
- ・災害対策本部会議での中国地方整備局長による対応指示を受け、訓練を開始。

災害対応に関する中国地方整備局長指示

- ①自身の安全を確保すること
- ②津波の影響のない区域では速やかに調査に着手すること
- ③被災地方自治体への支援体制の準備を進めること
- ④各班間で情報を共有し、重複する箇所は主務を決め、想定される事態に万全の体制で臨むこと

●訓練の概要●

訓練では、以下の被害が発生したものと想定し、総括班、河川班、道路班、港湾空港班等の各班において、被災状況や道路交通状況等の迅速かつ的確な伝達、復旧工法の検討などの訓練を実施。

<被害の想定>

- ・千代川堤防の沈下
- ・津波による浸水・道路冠水
- ・国道29号の法面崩落
- ・大規模土砂崩落による河道閉塞
- ・港湾施設の被災 など



<各班からの応急復旧状況などの報告状況>



河川班



道路班



港湾空港班

主な訓練の概要

●災害対策ヘリコプターによる被災状況調査●

災害発生後速やかに災害対策ヘリコプターを出勤させ、浸水・道路冠水、大規模土砂崩落、国道29号の法面崩落、鳥取港防波堤の被災状況などについて把握・報告。

●投下型水位計による天然ダムの状況把握●

大規模土砂崩落により堰ダム上流に形成された天然ダムの状況を把握するため、投下型水位計を設置。堰ダム貯水池を天然ダムに見立て、ヘリコプターから水位計を投下。その状況を衛星小型画像伝送装置（Ku-SAT II）を用いて映像配信。

●上空からの被災状況調査●

災害対策ヘリコプターからの調査に加え、ラジコンヘリコプターを活用した蒲生川（県管理河川）の被害状況報告や気球空撮システムを活用した港湾施設の被害状況報告を実施。

●災害対策機械の派遣、車両撤去●

浸水・冠水した鳥取市の要請を受け、排水ポンプ車等を現地に派遣。災害対策基本法に基づく道路管理者による放置車両の撤去について手順を確認。

●TEC-FORCE、リエゾンの派遣●

被災状況の把握と被災自治体の支援のため、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）とリエゾンの派遣をシュミレート。

●テレビ会議による情報の共有●

テレビ会議システムを用いて、災害対策本部と支部間において情報共有を実施。



ヘリテレによる被災状況報告



水位計の投下



Ku-SAT IIによる水位計の投下状況映像配信



テレビ会議による情報共有



ラジコンヘリによる上空調査状況



気球空撮システムによる上空調査状況

今回の訓練では、被災状況の把握・伝達や災害対策機械の実働訓練のほか、関係機関や地方公共団体などの関係機関など29機関、約1,000人が参加し、情報共有やリエゾン派遣、各種調整など関係機関と連携したより実践的な訓練となった。

今後、訓練で明らかになった課題や反省点を踏まえ、即時・即応性の確立に向けて全力で取り組んでいく。